



発行所

関西配管工事業協同組合

〒531-0071

大阪市北区中津1-2-19

新清風ビル7階

TEL(06)6371-5905 FAX(06)6371-9544

編集者

事業部・教育情報部

HP:<http://www.kankan-club.or.jp/>

E-mail:jimu@kankan-club.or.jp

発行日
平成25年1月31日

Vol.57



関 西 配 管 工 事 業 協 同 組 合 機 関 誌

もくじ



● 「新春を迎えて」斎藤昭一理事長	2
● 賑やかに新年賀詞交歓会	3
● 組合員・賛助会員懇談会開く	4
● 3団体懇談会を開催	5
● 4団体協議会を開催	6
● 技能士検定実技講習を実施	7
● 受検対策実技講習を実施	8
● 配管技能コンテストに参画	9
● 積水化学の製品説明会開く	10
● 登録配管基幹技能者認定講習開催	10
● 理事会 議事要旨	10
● ニュースファイル	11

新春を迎えて

若者が希望持てる業界めざそう



理事長 齊藤 昭一

新年明けましておめでとうございます。年頭にあたり一言ご挨拶申し上げます。

平素は、組合活動へのご協力に対し心よりお礼申し上げますと共に、本年もご支援のほどお願い申し上げます。

いぜん景気回復は実現せず、厳しい状況が続きますが、世間の一番の関心事はやはり景気回復ではないでしょうか。政府が金融緩和などの政策を行うも効果が出ず、経済状況はますます冷え込む一方です。まず、デフレ脱却と円高対策を行い、新たな需要を掘り起こし、それを民間活力に結び付けられるような一年となる景気対策を期待いたします。

昨年度におきましては、公共の構築物の経年劣化による問題により悲しい事故が起こりました。私たちの身の回りにはそのような構築物はまだまだ沢山あり、原発問題で急浮上した構築物の補修や、港湾や空港の整備、がけ崩れ対策等々の防災関係の整備もあります。

このような防災減災（減災とはあらかじめ被害の発生を想定した上で、その被害を低減させていく）と

るもの）は、われわれの業界と直結することでもあり、従来の箱ものを造ることに加え、防災減災の政策を積極的に打ち出していただき、われわれ業界が社会・経済に貢献することを通じて、たくさんの雇用を生み出し、将来を担う若者が希望持てる業界になることを願います。

当組合では、業界の活性化と楽しく・希望を持って働く環境を創ることをめざして「登録配管基幹技能者認定制度」を創設して、当組合から現在437名（全体登録配管基幹技能者数2237名）を教育・訓練などを定期的に開催して育成してきました。本年はさらに力をいれて技能者育成に取り組んでまいりたいと考えております。技術向上はもちろんのこと、訓練の場を通じ、さまざまな情報交換や人との繋がりを持つ有意義な時間になるよう取り組んでまいります。

未来を創る多くの人が集まり、今後もわれわれの業界がますます活性化することで、皆様の会社やご家族の方が安心で幸せあふれる毎日を過ごせることを祈願いたしまして年頭のご挨拶とさせていただきます。

巳年がスタートしました。「巳」の字はヘビの象形文字といわれ、冬眠していたヘビが春になって地上に出てきて活動を始めることが意味するとしています。脱皮するヘビは復活の象徴とされ、知恵や財産をもたらすものとして信仰の対象になつてきました。関西ではヘビのことを「ミーさん」と親しみを込めて呼び、脱皮した抜けガラを財布に入れる金運がつくという人もいます。

ところで、宇賀神（うがじん）という神様をご存知ですか。右の写真がそうです。全国各地にあり、人頭蛇身の姿は共通していますが、頭部は老翁であったり、女性であったりとまちまちです。神名の「宇賀」は諸説ありますが、穀靈、福德にまつわるものが多いようです。写真の宇賀神はアジサイの寺として知られる宇治・三室戸寺の境内にテーパンと鎮座しています。トグロを巻いた大蛇の体に福深い老翁が満面の笑顔を浮かべています。ちょっとグロテスクか、愛嬌があるかは見る人によって異なるでしょうが、なでると財運がつく縁起のいい神様として知られています。



巳の神様「宇賀神」

賑やかに新年賀詞交歓会

—厳しさ乗り越えよう—

組合の新年賀詞交歓会は1月22日午後5時30分から大阪・中津駅近くのホテルコムズ大阪で開催し、賑やかに新年の挨拶を交わして2013年の門出を祝いました。

新年賀詞交歓会には関連団体や教育機関、組合顧問などからの来賓、組合員、賛助会員など合わせて約60名が出席し、庄司真之副理事長の司会で進められました。

年頭挨拶に立った斎藤昭一理事長は、組合事業に対する協力にお礼を述べるとともに、「今年は安倍新政権による経済再生の各種施策で景気が上向くと期待されているが、当業界の業況は当面厳しさが予想される。業界・組合が一致団結して少しでも受注が増え、また受注単価が上昇するようお互い頑張っていこう」と呼びかけました。

来賓が1人ずつ紹介されたあと、大阪空気調和衛生工業協会の城口俊雄副会長が来賓を代表して挨拶。城口氏は、公共事業の拡大に期待を寄せるとともに、「今後一層、技能者や事業後継者の不足が心配される。こうした中、関西

配管工事業協同組合さんは1級配管技能士や登録配管基幹技能者の育成に力を入れられ、また、当協会の配管技能コンテストの運営にもご支援いただいているように技術・技能向上に注力され、まこと



年頭挨拶を述べる斎藤理事長



城口氏が来賓挨拶



山野氏の発声で乾杯

に心強い。これからも力強く発展していかれることを祈念申し上げる」と述べました。

大阪府中小企業団体中央会の山野義雄事務局長が中央会への支援にお礼の言葉を述べ、「大規模な今年度補正予算が組まれるなど久しぶりに明るい年明けとなつたが、新政権にはこれを真の景気回復につなげてほしい」と挨拶し、同氏の発声で乾杯したあと賑やかに交歓しました。

途中、賛助会員が1社ずつ壇上で自社PRを展開したほか、教育機関の先生方や顧問弁護士の先生からもご挨拶をいただき、また自慢の喉を披露するカラオケも交えて大いに盛り上がりました。

最後に、玉川義光副理事長が「1級配管技能士の育成に一段と力を注いでいく」と決意を示し、同氏の音頭で威勢よく大阪締めを行い、今年の健闘を誓い合いました。



カラオケで大いに盛り上がる



玉川副理事長の音頭で威勢よく大阪締め

組合員・賛助会員懇談会を開催

市場動向で情報交換

技能者の不足懸念

第3回組合員・賛助会員合同懇談会を12月6日に地下鉄中津駅近くの三栄ビル会議室で開催し、市場動向について情報・意見交換しました。

懇談会には組合員10人、賛助会員11人が出席。玉川義光副理事長が「当業界は業況が厳しい上に社会保険未加入問題など多くの課題も抱えている。材料メーカー・流通業と施工業は切っても切れない間柄であり、互いに協力してやっていきたい」と挨拶し庄司真之副理事長の司会で進められました。

市場動向について、組合員側から、うめきた（梅田北ヤード再開発）の設備工事が技能者不足で遅れている現状が示され、このほかの物件でも今後、技能者不足が心配されるという声が出ました。ま



えている現状が報告されました。

これに関連して組合員から、近畿地区で学校校舎の空調工事がコンスタントにあるということが報告されました。ただ、これら校舎工事ではサブコンが主導権をとつて行っているところは工事業者の利益の出にくいケースが多いことも明らかになりました。

また、組合員から最近、スマートフォンの需要増大を受けて通信会社が大規模な通信基地建設を行い、この施設に付随する配管関係工事がかなり出てきていることが報告されました。

一方、あるスーパーゼネコンがサブコンに対し、傘下の施工業者に何人の1級配管技能士がいるかアンケート調査を行っていることが報告され、ゼネコンに配管技能の重要さが改めて認識されつつあり、当組合が力を注いでいる1級配管技能士の育成が改めて評価されようとしていることも報告されました。

一方、当組合はゼネコンの有志の人たちと親睦・情報交換の場を持っており(現在は組合青年部を中心に活動)、この催しに賛助会員にも参加を呼びかけたい…と



た、平成25年の配管工事量見通しについては、京都、和歌山などで大型建築物件が控えていることが報告されました。

賛助会員からは、東北、関東、中部圏での配管工事がらみの機器需要が伸びているとする情報が出されたほか、マンション・リフォームや団地の配管シャフトまわりの改修工事が堅調で、さらに、空調関係で新冷媒への改修工事が増

工事価格については、3年ほど前、サブコンが全然聞き入れなかった〈材料持ち〉が最近ときどき可能になるケースがあることから、少し状況がましになっているのは…という声がある反面、750万円で見積もろうとした物件が300万円の指値を受けたということもあって、やや受注環境が好転しそうな気配はあるが、まだ厳しい業況にあることがうかがえました。

いう意見が出て、これに対し、賛助会員側からはゼネコンに接触するのは意義があり、出会いの場があれば声をかけてほしいという意見が出ました。また、機会を捉えて商品説明の場なども設けてほしいとの要望も出されました。

最後に、山田誠香副理事長が「今日の情報交換を仕事にいかしていただきたい」と挨拶し、懇談会を終えました。

賛助会員側

組合員側

再下請負通知書に保険加入欄

各建設業で「標準見積書」作成へ

当組合、近畿保温保冷工業協会（保温保冷工事、会長細見義征氏）、近畿空調工事業協同組合（ダクト工事、理事長増田岳史氏）で構成する3団体懇談会は、11月22日午後3時から5時まで当組合事務局近くの三栄ビル会議室で第32回会合を開き、建設業の社会保険未加入問題への対策、登録基幹技能者の活用——について話し合いました。

懇談会には保温保冷団体から5人、ダクト団体から4人、当組合から6人の計15人が出席。開催当番幹事の当組合・山田誠香副理事長が「職人不足が顕著になり、また受注単価も上がらず、厳しい経営を余儀なくされているが、頑張っていこう」と挨拶したあと、玉川義光副理事長の司会で進められました。

保険未加入問題についてはすでに11月から国やゼネコン、サブコンによる下請事業者への加入指導が始まっていることから、玉川理事長が国土交通省・土地・建設産業局の配布資料に基づき同省の「下請指導ガイドライン」や今後



のおおまかな取り組みスケジュールなどの説明を行いました。

建設業の保険未加入者をなくす取り組みは、今後、平成28年度末までほぼ5年をかけて未加入業者を建設現場から排除しようと始まっているものです。しかし、その取り組みも緒に就いたばかりであり、目立った動きはみられていないとする意見が出ました。ただ、元請に提出する〈再下請負通知書〉に保険加入の有無を掲載する欄がある書式が出回り、ここに未加入作業員がいると記したところには元請の指導が行われていることが報告されました。そのことを記録に残そうとしているサブコンがあるという声もありました。

また、これから、施工管理台帳や作業員名簿にも保険加入・未加入の記入欄が設けられ、それをもとに未加入事業者への指導が強化されるのではといった意見も出ました。

一方、国交省は社会保険料を法

定福利費として受注単価に外枠で加えた〈標準見積書〉の制定を指導しており、それぞれの建設業団体は平成25年5月をめどに〈標準見積書〉を作ろうとしています。このことから、今回の懇談会では、しばらくゼネコンやサブコンの動静をみつつ、〈標準見積書〉のひな型の完成を待って時代の流れに対応していこうとの意見で一致しました。

登録配管／ダクト／保温保冷基幹技能者の活用については前述の〈再下請負通知書〉に登録基幹技能者を書き込む欄があり、ここに書き入れないほどの人数があれば、欄外にでも書き入れてその存在・活用をアピールしていくこととしました。また、「ゼネコンなどが設けている『マイスター制度』のように知名度を上げたい」「機会をとらえて工事発注元の現場所長に基幹技能者の存在を積極的にアピールしていくべき」などの意見が出ました。



4団体協議会を開催

保険未加入業者問題で意見交換

当組合、近畿空調工事業協同組合（ダクト工事、理事長増田岳史氏）、近畿保温保冷工業協会（保温保冷工事、会長細見義征氏）と大阪空気調和衛生工業協会（大空衛＝サブコン団体、会長大平哲也氏）で構成する4団体協議会は、7月23日に第10回目会合を、11月26日に第11回目会合をそれぞれ大空衛事務局会議室で開き、建設業界の「保険未加入問題」を中心に意見・情報交換しました。



第10回目会合

国土交通省の指導により、建設業界では平成24年度から28年度の5年計画で建設許可業者の保険加入率100%をめざしています。これにより、建設技能労働者の処遇を向上させ、建設産業の持続的な発展に必要な人材の確保を図るとともに、法定福利費を適正に負担する企業による公平で健全な競争世界の構築を実現したいとしています。

11月の4団体協議会の会合では、すでに11月1日からゼネコンなど発注元に提出する「建設業法・雇用改善等に基づく届出書(再下請負通知書)」に保険加入の有無を

記す欄が設けられるなど周知・啓発、状況把握への取り組みが始まったことが報告されました。しかし、取り組みも始まったばかりで、未加入業者がいても現場から排除するなどの動きはなく、その場合もゼネコンなどから加入を指導するようされている段階との意見が多く出されました。これについては、加入指導しても「費用がかかるから待ってほしい。努力する」などといわれたらどうしよう

れ、また、そのことを記録に残すよう求められているという状況が報告されました。

また、保険未加入問題に関連して、社会保険などを法定福利費として見積書に〈外出し形式〉で計上しようとする動きについて情報・意見交換しました。建設関連の各業界団体では、法定福利費を盛り込んだ〈標準見積書〉の作成が具体的に検討されており、平成25年5月をめどに完成する予定です。ただ、現在その〈標準見積書〉案の中には完全な〈外出し〉となっていないものもあり、問題だとの意見が出されました。

また、設計変更（工事変更）になった場合、法定福利費の再計算をどうするのか、とてもなく手間と時間がかかることになる——など設備関係建設業が抱える難し



第11回目会合

もないとの声も出ました。

一方、大手ゼネコンの下請登録はインターネットで申し込む形式で行われており、そこでは保険加入状況を記入しないと登録できないシステムとなっているとの報告がありました。未加入と記入すれば、加入指導をするよう要請さ

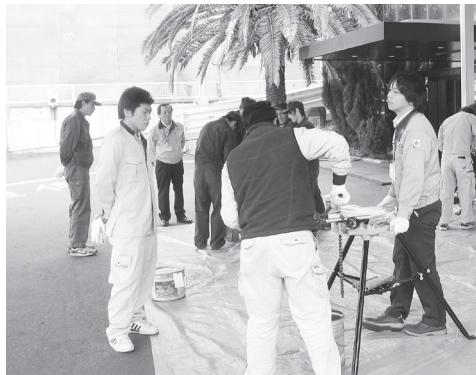
い問題も内包していることが報告されました。このため、保険未加入対策、法定福利費処理対策については、当面、国交省やゼネコンの動きを見守りながら順次対応していくほかないとの意見が大勢を占め、今後も機会を見つけて討議していくこととしました。

技能士検定実技講習を実施

手動ねじ切りのコツを習得 積水／レッキスの新商品も学ぶ

組合は、12月1日に大阪府東大阪市のレッキス工業・花園工場で1級配管技能士検定に向けた実技講習を実施しました。参加した44名は、今年度の技能士検定に備えて12月中旬開催の組合主催・受検事前講習（南大阪高等職業技術専門校）の予習を兼ね、手動ねじ切りのコツを習得しました。また、積水化学工業とレッキス工業の新商品・新工法の最新情報を学びました。

実技講習は毎回、レッキス工業の全面的なバックアップにより実施され、今回で13回目。この日も土曜休業日にかかわらず同社幹部・技術スタッフが出勤して研修



をサポートしてくれました。

冒頭、玉川義光副理事長（教育情報部会長）はレッキス側に感謝の言葉を述べるとともに、「今日の講習に参加した全員が1級配管技能士資格に合格し、それぞれがリーダーとして頑張っていってほしい。そして、登録配管基幹技能者の取得もめざしてほしい。基幹技能者は現在2237名を数え、まもなく

3000名に達する。一定以上の工事には配置が必要な資格であり、これに合格すれば社会的地位も上がる」と激励しました。講習では、技能検定に必須のパイプねじ切り「手動ねじ切り」に、レッキスの担当者からレクチャーを受けながら挑戦しました。

また、同工場に隣接する「レッ



玉川副理事長
挨拶する

キスミュージアム」でパイプマシンをはじめ、各種配管機器の歴史を学び、水圧・満水試験器「みるみるくん」やグループ溝加工機の紹介も受けました。

このあと、積水化学工業の環境・ライフカンパニー西日本支店建築システムグループ部長の石田修朗氏が同社の高機能樹脂配管

(ACドレン／耐火VP、スーパーESロメタックスなど)や埋設給排水管更生工法を紹介しました。さらに、レッキス工業からは、配水用ポリエチレン管用融着工具について大谷和人氏が紹介し、普及が拡大しつつある「転造ねじ」については大西規夫氏が説明し、合わせて加工実演が行われました。



新商品・新工法の講習



レッキスミュージアム見学

技能士受検対策の実技講習会

受検本番さながらの作業試験実施

平成24年度の1級配管技能検定(24年1月)へ向け、組合では12月15日(土)と16日(日)の2日間にわたり、大阪府和泉市テクノステージの大坂府立南大阪高等職業技術専門校で受検対策実技講習を行いました。

講習はレッキス工業で実施した予備講習に続く本格的な実技講習で、当組合役員や熟練技能者が指導員となり、両日とも午前9時から午後5時まで昼食をはさんでびっしり行われました。26名の1級配管技能士の受検予定者が鋼管、塩ビ管、銅管の切断や管継手との接続など配管実習と本番さながらの作業試験に取り組みました。

初日の午前中は、オリエンテーションに続き、澄川史朗講師によ



る「材料取り・ペーパーテスト」の講習(座学)が行われ、最後に配管図から材料を拾い出して材料表を作成する練習問題試験が実施されました。

午後の実技講習では、まず玉川義光副理事長が受検に向けての構えや実技の要項を説明しました。この中で玉川副理事長は、組合が独自に作成した「実技テキスト」に基づき、作業の細かいコツなどを交えて作業手順を説明しました。続いて、池成信夫指導員などが手動ねじ切りや溶接の模範実技をそれぞれ行いました。また、今回は実技に入る前に、塩ビ管と銅管の切断の要項説明が行われ、それに基づいて各自が切断したサンプルを提出させて指導しました。



「材料取り」の講習



実技の作業手順や要項の説明

引き続き、実技講習に移り、各指導員が受講者の間を細かく巡り、配管作業の指導に当たる中、受講者は技能検定に欠かせない手動ねじ切りや接合・接着、配管組立などで作業試験の課題作品づくりに取り組みました。

2日目は、午前中、前日の材料取り練習問題試験で及第点に達しない受講者は補講を受け、あとの人は前日の反省を交えて実技講習を受けました。午後は受検本番と同じ時間で課題作品づくりに挑戦しました。受講者は3時間30分かけての模擬検定作品の作製に懸命に取り組んで完成させ、指導員から寸法採点、水圧テストを受けて反省点を洗い出し、受検本番に備えました。



指導員によるねじ切りの模範実技



指導員の入念な指導のもと実技講習に励む

大空衛主催

第4回配管コンテストに参画

8月26日に東大阪市の府立東大阪高等職業技術専門校（テクノセンター東大阪）で開催された大阪空気調和衛生工業協会（会長大平哲也氏）主催の第4回配管技能コンテストに当組合は選手を派遣するなどで参画しました。

コンテストはこれまでと同じく現場の第一線で活躍する配管技能者を「一般の部」、建築設備関連学科を履修中の高校生を「高校の部」として実施されました。24人の一般技能者と15人の高校生が参加し、一般は1級技能検定レベルの課題作品制作（制限時間3時



39人が参加して日頃の腕を競う

間）に、高校生は同3級レベルの課題作品制作（同2時間30分）に臨みました。

完成した作品は誤差測定、出来映え、水圧試験による漏れ検査などで綿密に審査され、一般の部では東和管工の吉野慎一郎氏が優勝、準優勝も同社の中野康弘氏が



一般の部上位入賞者（前列）

獲得しました。高校の部では布施工科高校の中西洸羽君が優勝し、彦根工業高校の池田達郎君が準優勝となりました。このほか、一般の部の上位入賞者は3位・比嘉正弥氏（アルファー）、4位・石田淳氏（三進興業所）、5位・首藤祐一氏（東豊設備）の各氏でした。

積水化学の製品説明会開催

話題の高機能管材を学ぶ

積水化学工業の高機能樹脂管材についての製品説明会が10月4日午後4時から組合事務局近くの三栄ビル会議室で開催され、組合員が出席して製品知識を習得しました。

同社では各種のライニング鋼管の開発を通じ金属管の腐食対策を提案する一方、HIパイプやさや管ヘッダー工法などの普及にも力を入れ、樹脂管のすぐれた耐久性が市場で高く評価されています。また、低炭素社会実現の要請から製造時の環境負荷が低い樹脂管で、かつ軽量化による労務の軽減や保温工事も配管工事で行える高機能の樹脂管を開発し、注目を集めています。今回の製品説明会ではこれら高機能樹脂管材に焦点をあてて実施されました。

積水化学工業からは環境・ライフラインカンパニー西日本支店建築システムグループの石田修朗部長など3人が講師として出席。①設備配管材料の環境負荷（高機能樹脂管による環境負荷低減）②高機能樹脂管の紹介③空調ドレン配管の結露防止層付塩ビ管④高機能樹脂管群の採用状況・他管種との経済比較・コストポジションについて説明しました。

高機能樹脂管材では敷地内・建物内耐震型給水管として配水用ポリエチレン管「エスロハイパーPE・AW」、ファンコイル機器接続、給水・給湯管として金属強化ポリエチレン管「スーパーESロメタックス（保温付）」、空調ドレ

ン配管として結露防止層付塩ビ管「ACドレン」「ACドレンフレキユニット」、防火区画貫通を可能にした耐火性塩ビ管（排水・通気）「耐火VPパイプ」などが紹介されました。

近畿地区

登録配管基幹技能者講習を開催

登録配管基幹技能者を認定する平成24年度講習が近畿地区では9月6～8日の3日間、大阪市中央区の「エル・おおさか」で開催されました。認定講習は例年、新年明けの1月下旬に三田市で開催されてきましたが、今回は4カ月ほど時期を早めて会場も大阪市内に移しての開催となりました。

登録配管基幹技能者講習は、国土交通大臣登録講習として、日本空調衛生工事業協会（日空衛）、全国管工事業協同組合連合会（全管連）、そして当組合の上部団体・日本配管工事業団体連合会（日管連）の3団体が行っているものです。今年度の登録講習は近畿を皮切りに、東北（宮城県）、関東（小平市）、四国（香川県）の4会場の開催となりました。

近畿地区会場では、当組合から玉川義光副理事長、庄司真之副理事長、中野広造理事、小阪武司理事の役員4人が講師を務め、60人が受講しました。当組合の講師は3日目の講習を受け持ち、「OJTとその進め方」と「ケーススタディ」を玉川、庄司の両副理事長が担当し、「OJTの実践方法」と「OJTの実践演習」を中野、小阪両理事が担当しました。

理事会 議事要旨

【24年9月】

- ①大空衛主催の第10回4団体協議会出席報告
- ②大空衛主催の第4回配管技能コンテストの結果報告
- ③日管連・24年度（第7回）定時総会・理事会出席報告
- ④社会保険未加入対策推進の近畿地方協議会出席報告
- ⑤賛助会員からの組合脱退申し出の件
- ⑥技術研修会開催要領作成の件
- ⑦その他（登録基幹技能者パンフレット配布の件。賛助会員・積水化学工業より製品説明会開催依頼の検討の件。理事会議事録送付先の件）

【24年10月】

- ①24年度認定職業訓練配管科1級技能士コース修了報告
- ②日管連・24年度全国青年部会（第3回）開催に伴う当組合青年部からの出席報告
- ③第32回3団体懇談会開催に伴う当組合からの提案事項の検討
- ④24年度1級配管技能検定の受検対策実技講習会開催要領の件
- ⑤第3回組合員・賛助会員合同懇談会開催要領の件
- ⑥その他（積水化学工業の製品説明会参加申込者の報告）

【24年11月】

- ①24年度上半期組合会計収入支出状況の報告
- ②25年度認定職業訓練配管科1級技能士コースの実施計画の件
- ③25年新年賀詞交歓会開催要領作成の件

【24年12月】

- ①第13回技術研修会の終了報告
- ②大空衛主催の第11回4団体協議会の出席報告
- ③第32回3団体懇談会の出席報告
- ④日管連・理事会の出席報告
- ⑤組合員からの組合脱退申し出の件
- ⑥第16回管工機材・設備総合展OSAKA2013後援名義の使用の件
- ⑦第3回組合員・賛助会員合同懇談会の運営順序打合せの件

いぜん後を絶たない 「下請代金法違反」

中小企業庁などは「下請代金支払遅延等防止法」(下請代金法)に基づき平成24年度上半期（4～9月）に約25万社へ書面調査を行い、親事業者の約2割に警告（指導）文書を出し、561社に立入検査を実施した。その結果、488社に改善指導を行った。

警告や改善指導を受けた企業は前年同期より減少したが、下請事業者から法違反の恐れがあるとして申告された件数は増加し、減額された下請代金の返還指導額も大幅に増えるなど下請企業に対する厳しいしわ寄せの実態が浮き彫りとなった。

下請代金法に基づく24年度上期の取り締まりでは、親事業者4万5127社に下請事業者20万4940社を加えた計約25万社に対して書面調査を実施し、その結果、下請代金法違反のおそれのある親事業者9011社（前年同期9712社）に警告文書を出した。警告された企業は調査対象親事業者の2割。

違反内容は、実体規定関係の禁止行為の違反として「支払代金の支払遅延」が172件、「下請代金の減額」が130件とこの両者を合わせて全体の76%を占めた。

業務用の空調市場 順調に拡大見通し

矢野経済研究所は、国内の業務用空調システム市場の調査を実施し、2011年度の市場規模は前年度

比9%増の4164億円、17年度には4532億円に拡大するという調査結果を公表した。調査期間は12年8月～11月。

それによると、11年度の業務用空調システム市場規模（メーカー出荷金額ベース）は4164億円、12年度も4272億円（前年度比2.6%増）と引き続き伸長すると見込む。



今後の業務用空調システム市場は、大規模ビルに適用されるセンタラル空調方式でも中小規模ビルに適用される個別空調方式でも、リニューアル需要の比率が高まることにより安定的に推移し、17年度には4532億円に拡大すると予測する。

15年度の増改市場 11年度比13%増へ

富士経済はこのほど、国内住宅リフォーム市場の調査結果を公表し、2015年度の市場は11年度比13%増の8兆5295億円と予測した。

同調査結果によると、15年度では戸建てが11年度比微増の5兆7801億円にとどまるが、集合住宅が17%増の2兆7494億円に成長し、合計13%増の8兆5295億円を

予測した。

コンセプト別にみると、太陽光発電システムやガスエンジンCGS、家庭用燃料電池の導入による「創エネリフォーム」市場は、11年度に前年度比40%増の3655億円となった。15年度は11年度比2以上の8519億円を予測している。

一方、逼迫した電力供給状況を受け、ヒートポンプ式給湯器やLED照明器具、HEMSなどの導入による「省エネリフォーム」が増加している。11年度はエコキュート、とくにヒートポンプ式給湯器の減少が響いて前年度比4.2%減、12年度はその他の伸びにより、前年度比19%増を見込んでいる。15年度は11年度比2倍近い3425億円を予測している。

「耐震リフォーム」市場は東日本大震災後耐震性への関心の高まりにより需要が急増し、11年度の市場は前年度比5%増の4180億円。今後はほぼ横ばい推移が予想され、15年度の市場は11年度比横ばいの4130億円を予測している。

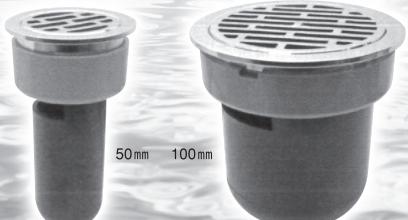
リフォーム部材市場（メーカー出荷金額ベース）については、「水まわり」「水まわり設備」「創エネ／スマートハウス関連設備」など調査対象とした6分野21品目は11年度に1兆2476億円、15年度には11年度比27%増の1兆5860億円を予測している。15年度に向けて最も市場拡大するのが「創エネ／スマートハウス関連設備」分野で、住宅用太陽光発電システムを中心に伸び、11年度比2.4倍の4894億円を予測している。

スーパートラップ付目皿 ワンタッチ掃兼金具

簡単に施工でき封水を確保

トラップ部が取り外し可能、メンテナンスも簡単

D-STD-PU 50・65・75・100mm



(スーパー トラップ付き)

蓋は \ominus ドライバー1本で
ワンタッチ取り外し、
装着は軽く押すだけ

D-3CO-STD-PU

50・65・75・100mm



総発売元



イクイップメントのサポート商社

株式会社

昭栄

本社 〒541-0059 大阪市中央区博労町2-3-1

TEL(06)6262-1241 FAX(06)6262-5947

本店営業部 〒577-0815 東大阪市金物町6-10

TEL(06)6725-9311 FAX(06)6725-9333

東京(042)487-6811 北関東(048)458-1234

大阪(06)6531-9601 金沢(076)291-9011

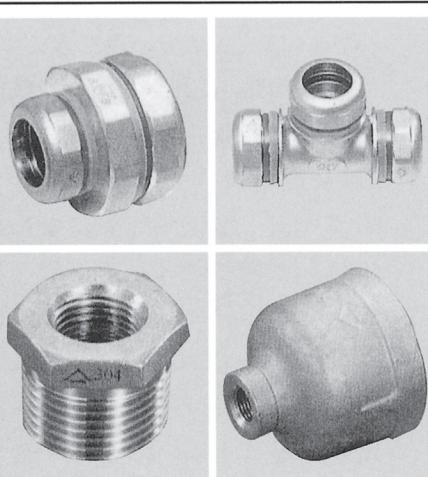
中 国(086)246-2611 姫路(079)284-4101

四 国(087)864-7351 松江(0852)26-1124

福岡(092)928-5001 北九州(093)951-7021

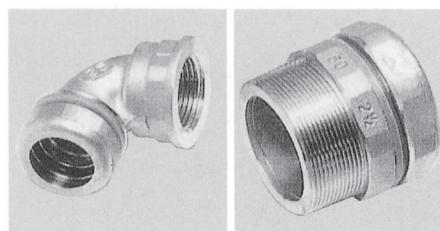
千葉(043)258-3811 大分(097)555-9840

山梨(055)279-5711 鹿児島(0995)62-3301



ステンレス製品

- メカニカル式管継手
サスフィット 拡管式
- ねじ込み継手



株式会社 **吉年**

本社・工場 〒586-8528 大阪府河内長野市上原西町16-1

TEL:0721(53)3121 FAX:0721(54)1814

東京支店 〒101-0047 東京都千代田区内神田3-4-11

TEL:03(5297)8221 FAX:03(5297)8222

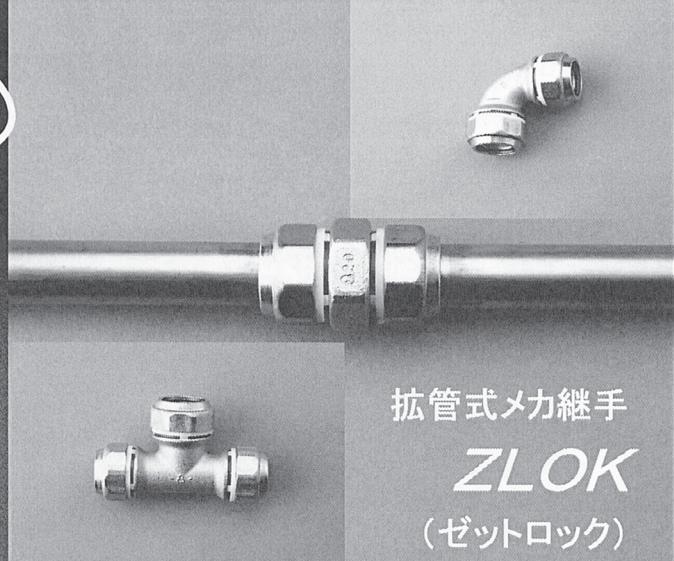
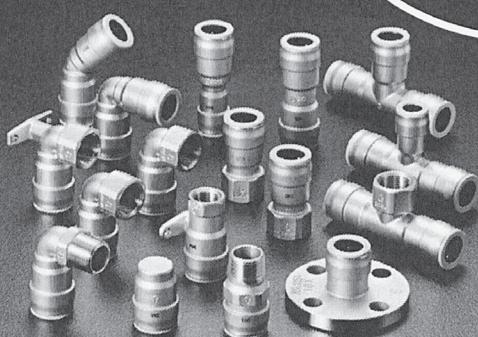
印管継手

給水・給湯・冷温水に!! 2つのSUS管用継手登場!

ワンタッチ式

SUSDAKE(サスダケ)

新製品!



拡管式メカ継手

ZLOK

(ゼットロック)

・印管継手

・管端防食管継手 **PQWK**

・日立カップリング継手 オメガシリーズ

・日立密閉型膨張タンクシリーズ

・ウォーターハンマ防止器

日立金属株式会社

関西支店

〒541-0041

大阪市中央区北浜3-5-29(日生淀屋橋ビル)

TEL:06-6203-9704 FAX:06-6202-0730

<http://www.hitachi-metals.co.jp>

HITACHI